◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI
DIGITAL PIANO
CA12
CA18
取扱説明書

●同梱品
□本体
□スタンド一式
□譜面台
□電源コード
□取扱説明書（本書）
□ファンクションシール（1枚）
□保証書
□スタンド組立図
□高低自在椅子
□ヘッドホン
□ヘッドホンフック
□ご愛用者カード
□アフターサービスと音楽教室のご案内
□PS-154（ACアダプター）
□楽譜集

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。
CA12/18は、木製鍵盤を搭載しており、グランドピアノのタッチをリアルに再現します。
ピアノ音色はフルコンサートグランドピアノをステレオサンプリングしたもので、ダンパーペダルを踏んだ時の響きも含めて大変リアルな音になっています。
自分の演奏を録音する機能、メトロノームなど練習に役立つ機能、2台のピアノとして楽しめる4ハンズ機能、音に残響効果を与えるリバーブなどを搭載しております。
また、付属楽譜集に対応した29曲のピアノ曲も内蔵しています。

本機の性能をフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目　　次

◆安全上の注意 2
1.各部の名称と働き 4
◇ 操作パネル 4
◇ 付属のファンクションシールの使用 4
◇ ペダル 5
2.演奏してみましょう 6
1）基本操作 6
2）4hands（連弾演奏） 8
3）メトロノーム（METRONOME） 9
4）デモ曲 10
3.録音・再生 12
1）録音 12
2）再生 13
3）録音内容の消去 13
4.設定モード（ファンクション） 14
1） 設定モードの基本的な使い方 14
2）タッチを変える 15
3）チューニング 15
4）リバーブ（残響） 16
5）ダンパーエフェクト 16
5. 付　録 17
1）外部機器との接続 17
2）本体の組み立て方 18
3）主な仕様 20
4）故障かな？と思ったら（お問い合わせ先） 21

◆安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

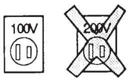
○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

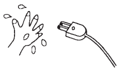
100V以外禁止



●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



●感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機の上に乗ったり倒したりしない

落とさない

●運搬の際は、必ず２人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない

使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める
●イスのネジがゆるんだ状態で使用しない

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

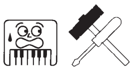
◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止

●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

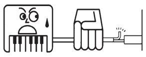
分解禁止



●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

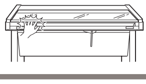
◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆組立は必ず二人以上で行う

●たいへん重いので一人での作業は事故の原因になります。

注意

◆本機を次のような所では使用しない
●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所

使用禁止

●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所

●故障の原因になります。

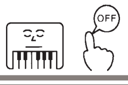
◆電源には必ず付属のACアダプタを使用する

●付属の AC アダプタは本機専用ですので、他の機器で使用しないでください。

◆ACアダプタに布団をかぶせたり、こたつの中で使用しない

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

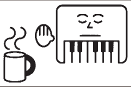
電源を切る



●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

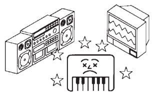
◆本機の鍵盤に寄りかからない

寄りかからない

●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

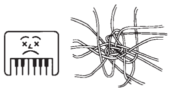
他電気機器から離す



●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

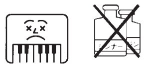
からまないようにする



●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

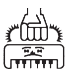
ベンジン／シンナー禁止



●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●パイロットランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっていますので感電に注意ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

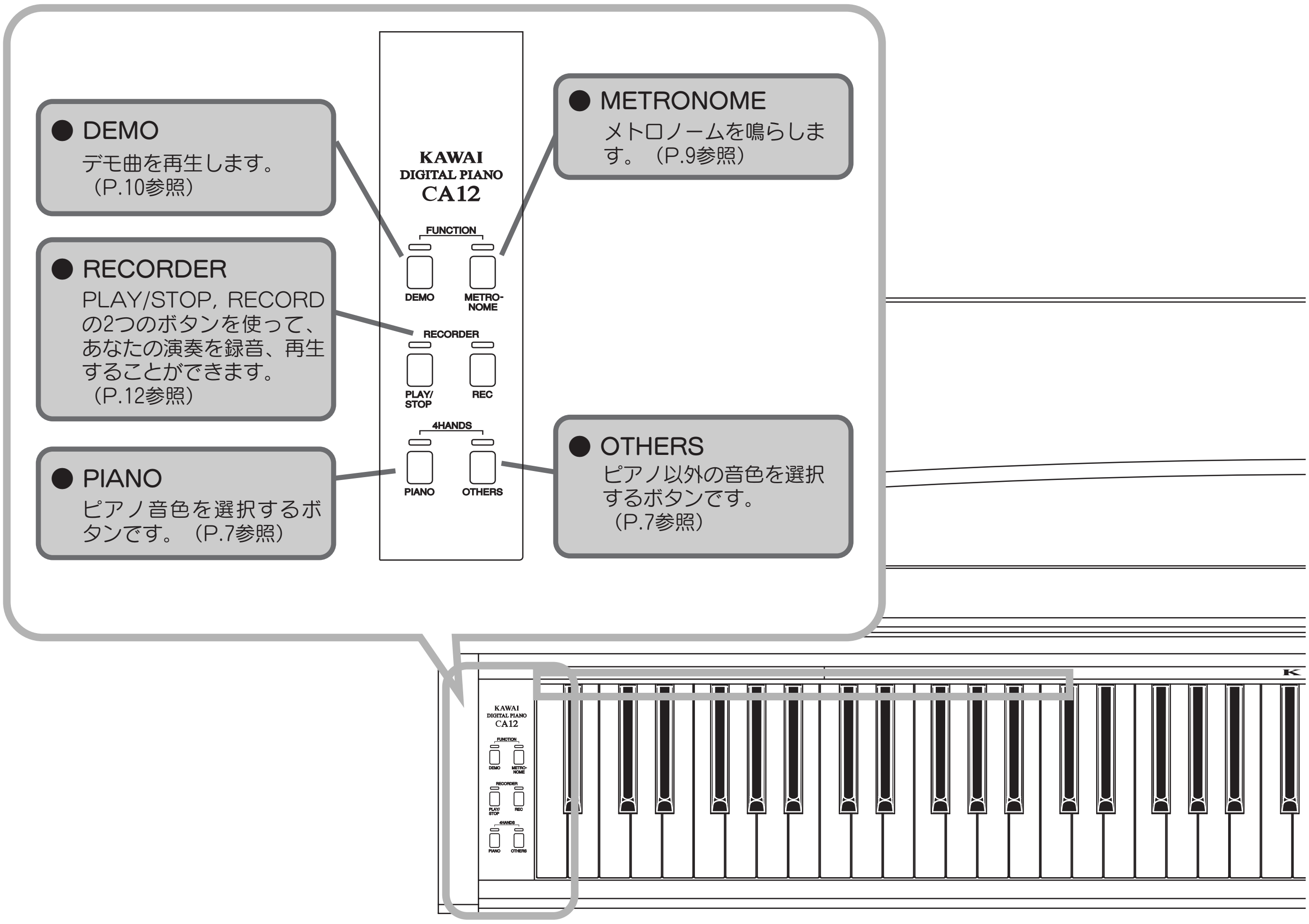
■修理について

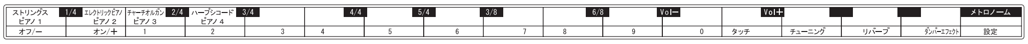
●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めいただいた販売店、またはお近くのフィールドサポート（同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」をご参照ください）までご連絡ください。

1.各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ 操作パネル





ファンクションシール

◇ 付属のファンクションシールの使用

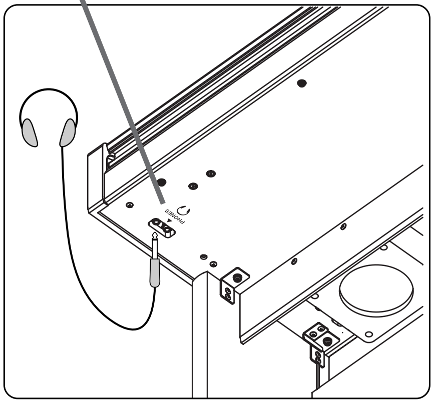
本機には、ファンクションシールが付属されています。
メトロノームや設定モードなどで値を設定するときなどに、黒鍵の後ろ側に差しこんでおくと便利です。
シールの左はし「ピアノ１（オフ／ー）」を最低音の鍵盤に合わせて置きます。
シールになっていますので、貼り付けることもできます。

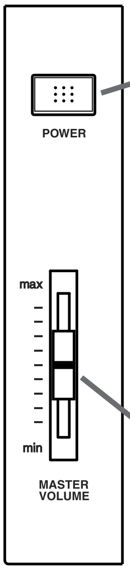
ストリングス ピアノ１	1/4 エレクトリックピアノ ピアノ２	チャーチオルガン ピアノ３ 2/4	ハープシコード ピアノ４ 3/4		4/4	5/4	3/8	
オフ/ー	オン/＋	1	2	3	4	5	6	7

6/8	Vol－		Vol＋				メトロノーム
8	9	0	タッチ	チューニング	リバーブ	ダンパーエフェクト	設定

● PHONES
（ヘッドホン）

ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを2つまで同時に接続できます。



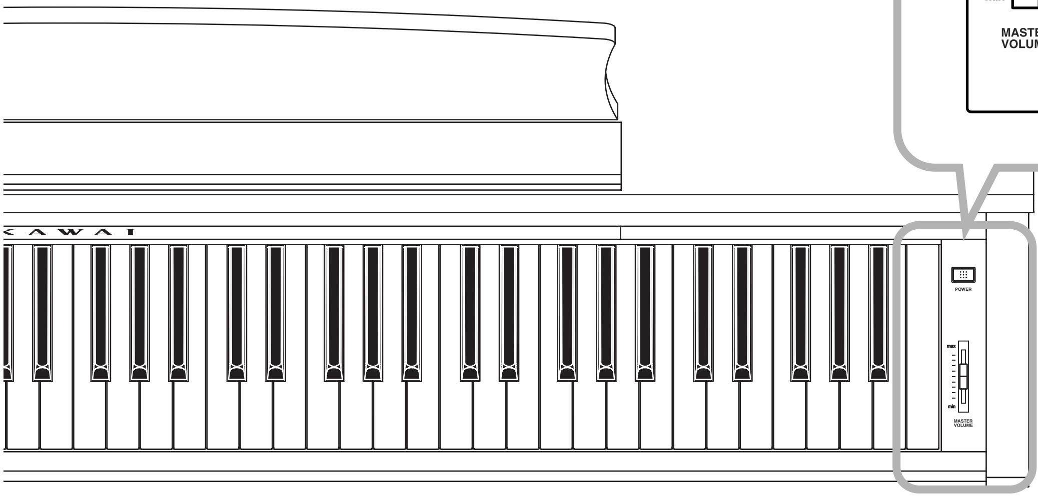


● POWER
（電源スイッチ）

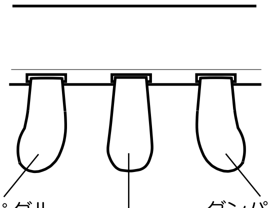
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。
（P.6参照）

● MASTER VOLUME
（マスターボリューム）

内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。
（P.6参照）



◇ ペダル



● ダンパーペダル

音に余韻を与えます。
ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。ペダルを踏む量によって残響時間の長さが変わります。

● ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

● ソフトペダル

音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

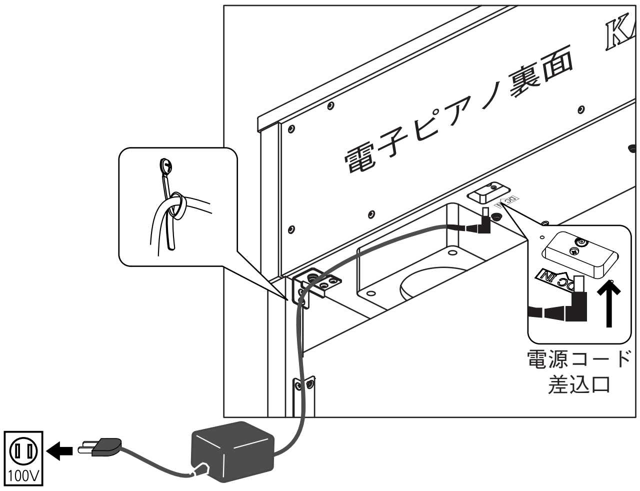
2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1）基本操作

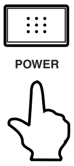
◇ 操作 1

付属の電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。あらかじめ電源コードを差込口に接続しておいて下さい。



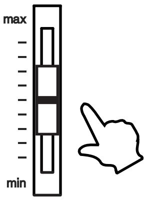
◇ 操作 2

POWER（電源）スイッチを押して電源を ON にします。



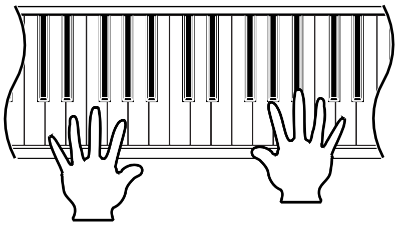
◇ 操作 3

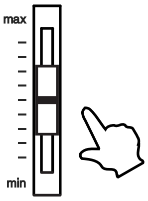
MASTER VOLUME（マスターボリューム）レバー（P.5）を中央付近にセットします。



鍵盤を弾いてみましょう。

電源 ON 時はピアノ 1 が選ばれています。音色ランプは点灯します。
“音色の選び方”（P.7）でピアノ 1 以外の音色を選ぶことができます。
MASTER VOLUME レバーでお好みの音量に設定して下さい。





■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 96 音です。

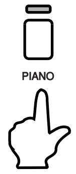
◇ 音色の選び方

音色の選び方は、次の３通りあります。
内蔵音色は８音色です。電源 ON 時はピアノ１が選ばれています。

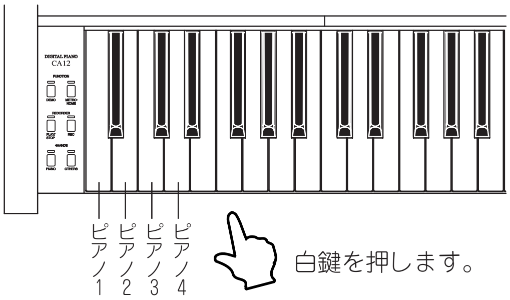
◆音色の選び方１

・ピアノ音色を選ぶ場合

ピアノボタン（PIANO）を押しながら、白鍵の最低音から４鍵を押して選択します。

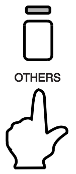


■ピアノ１を選択すると、ランプが点灯します。
それ以外だと、ランプは点滅します。

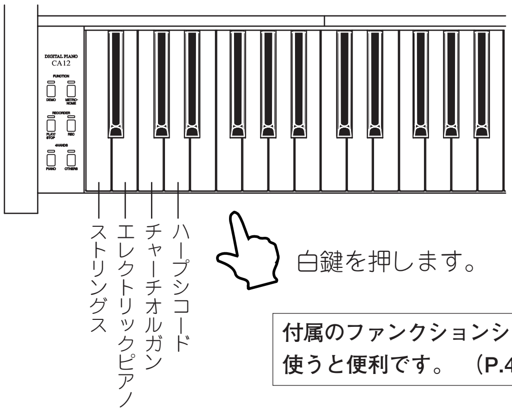


・ピアノ以外の音色を選ぶ場合

OTHERS ボタンを押しながら、白鍵の最低音から４鍵を押して選択します。



■ストリングスを選択すると、ランプが点灯します。
それ以外だと、ランプは点滅します。

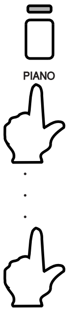


付属のファンクションシールを使うと便利です。**（P.4 参照）**

◆音色の選び方　2

・ピアノ音色を選ぶ場合

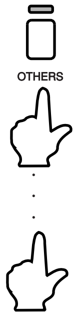
ピアノボタンを押すだけで、ピアノ音色を順に選択することができます。



電源 ON	点灯 ピアノ１
１回押すと	ピアノ２　（点滅）
２回押すと	ピアノ３　（点滅）
３回押すと	ピアノ４　（点滅）

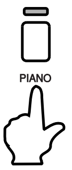
・ピアノ以外の音色を選ぶ場合

OTHERSボタンを押すだけで、ピアノ以外の音色を順に選択することができます。

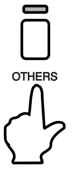


電源 ON	点灯 ストリングス
１回押すと	エレクトリックピアノ　（点滅）
２回押すと	チャーチオルガン　（点滅）
３回押すと	ハープシコード　（点滅）

◆音色の選び方　3



ピアノボタンを１秒以上押しつづけると、今どんな音色が選ばれていても、ピアノ１に戻ります。
ランプも点灯に戻ります。



OTHERS ボタンを１秒以上押しつづけると、今どんな音色が選ばれていても、ストリングスに戻ります。
ランプも点灯に戻ります。

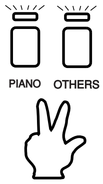
2）4hands（連弾演奏）

スプリットポイントを境にして右側と左側に鍵盤を分け、それぞれ同じ音域で演奏することができます。
この時、ダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、まるで２台のピアノのようにアンサンブル演奏を楽しむことができます。また、ペダルを使った曲のレッスンにも役立ちます。

◇ ***操作 1***

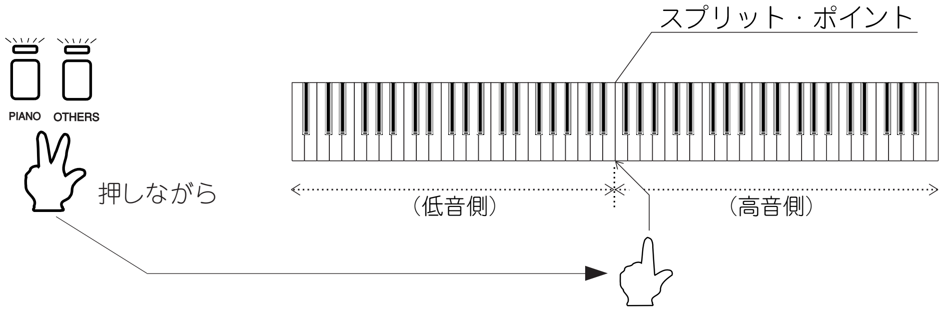
PIANO ボタンと OTHERS ボタンを同時に押すと、4hands（連弾演奏）が出来る状態になります。

PIANO ランプと OTHERS ランプが点滅します。



◇ ***操作 2***

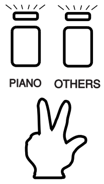
スプリットポイントを設定する場合は、PIANO と OTHERS ボタンを同時に押しながら、更にスプリットしたい鍵盤を押します。



スプリットポイントが設定されます。

◇ ***操作 3***

4hands（連弾演奏）を解除する時は、再度 PIANO ボタンと OTHERS ボタンを押します。



3）メトロノーム（METRONOME）

メトロノームを使って練習しましょう。

◇ *操作*

メトロノーム（METRONOME）ボタンを押すと、メトロノームボタンが点灯してメトロノームが鳴ります。

再度、メトロノームボタンを押して消灯させると、メトロノームが停止します。

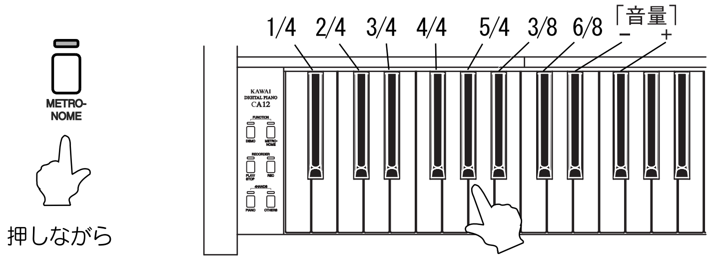
■ 電源オン時は、1/4 拍子 , テンポ 120 の設定になります。

◇ 拍子や音量を設定する

1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8 の拍子が設定できます。音量（VOLUME）も変えられます。

◇ *操作*

メトロノームボタンを押しながら、黒鍵のいずれかを押して、拍子や音量を設定します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（P.4 参照）

■ 4/4 拍子を指定する場合は、左から 4 番目の黒鍵を押します。
■ 1/4 拍子選択時には、アクセント（チーン音）が無いクリック音だけになります。
■ 音量は -/+ を押すことで少しずつ調整することができます。

◇ テンポを変える

♩＝ 10 ～ 300 の範囲で設定できます。
120などのテンポ値を直接設定する方法と、現在のテンポを少しずつ上げたり下げたりする2つの方法があります。

◇ *操作*

メトロノームボタンを押しながら、鍵盤を押してメトロノームのテンポ指定を行います。

設定は、テンポの値を 2 桁～ 3 桁で入力します。
メトロノームボタンをはなした時、指定した値に設定されます。

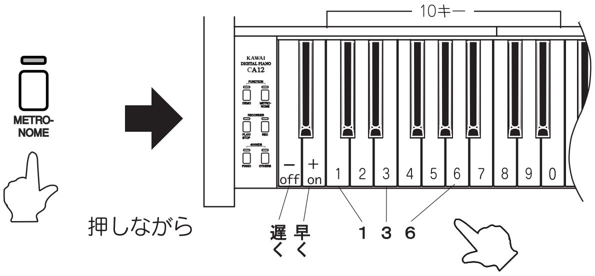
◆テンポを「136」に設定したい場合

◇ *操作 1*

メトロノームのボタンを押しながら、「1」「3」「6」の鍵盤を押します。
メトロノームボタンをはなします。

◇ *操作 2*

メトロノームのボタンを押しながら、鍵盤のー（off）/＋（on）のキーをくり返し押すことで、現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。（テンポの値を 2 ずつ上下できます）



付属のファンクションシールを使うと便利です。（P.4 参照）

4）デモ曲

音色毎にその音色の特徴を生かしたデモ曲を内蔵しています。

ピアノ１ ………… ゴリウォーグのケーク・ウォーク／ドビュッシー	ストリングス …… 四季“春”／ヴィヴァルディ
ピアノ２ ………… 小犬のワルツ／ショパン	エレクトリックピアノ … カワイオリジナル
ピアノ３ ………… カワイオリジナル	チャーチオルガン … トッカータ／ジグー
ピアノ４ ………… カワイオリジナル	ハープシコード … フランス組曲第６番／バッハ

更に、付属の楽譜集「クラシカルピアノコレクション」に収められているピアノ29曲（下記）も本体に内蔵しています。（ピアノ４デモ曲の後に再生されます）。

クラシカルピアノコレクション

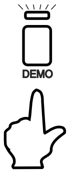
曲名	作曲家
タンブラン	Tambourin J.P.Pameau
調子のよいかじ屋The harmonious blacksmith	G.F.Handel
メヌエット ト長調Menuett BWV.Anh.114	J.S.Bach
メヌエット ト長調Menuett BWV.Anh.115	J.S.Bach
メヌエット ト長調Menuett BWV.Anh.116	J.S.Bach
かっこうLe Coucou	L.C.Daquin
ガヴォットGavotte	F.J.Gossec
メヌエット	Menuett L.Boccherini
主題と変奏“ピアノソナタ第11 番K.331 より第1 楽章” Thema und	W.A.Mozart
トルコ行進曲“ピアノソナタ第11 番K.331 より第3 楽章” Turkischer Marsch	W.A.Mozart
メヌエットMenuet	W.A.Mozart
ピアノ・ソナタ「月光」より第1 楽章Sonate fur Klavier No.14 “Mondschein ”	L.vBeethoven
ピアノ・ソナタ「悲愴」より第2 楽章Sonate fur Klavier No.8 “Pathetique ”	L.v.Beethoven
エリーゼのためにFur Elise	L.v.Beethoven
ロンド・ファヴォリRondo favori	J.N.Hummel
即興曲 作品90 の4 Impromptu op.90 - 4	F.P.Schubert
楽興の詩 作品94 の3Moments musicaux op.94 - 3	F.P.Schubert
間奏曲Entr ’ acte	F.P.Schubert
即興曲 作品142 の3 Impromptu op.142 - 3	F.P.Schubert
歌の翼にAuf Flugeln des Gesanges	F.Mendelssohn
春の歌Fruhlingslied	F.Mendelssohn
ロンド・カプリッチョーソRondo Capriccioso	F.Mendelssohn
別れの曲Chanson de l ’ adieu	F.F.Chopin
雨だれの前奏曲Raindrop	F.F.Chopin
子犬のワルツPetit chien	F.F.Chopin
ノクターン第2 番Nocturne No.2	F.F.Chopin
幻想即興曲Fantaisie - Impromptu	F.F.Chopin
軍隊ポロネーズPolonaise No.3 ” Militaire ”	F.F.Chopin
英雄ポロネーズPolonaise No.6 ” HeroIque ”	F.F.Chopin

◇ デモ曲を聴く

◇操作

DEMO ボタンを押すと、ピアノ１音色のデモ曲が演奏されます。
演奏を止めるには、DEMO ボタンを押します。

演奏を止めなければ、ピアノ、その他の音色の曲が順に演奏されます。



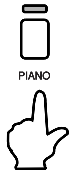
◇ デモ曲を選ぶ

◇操作１

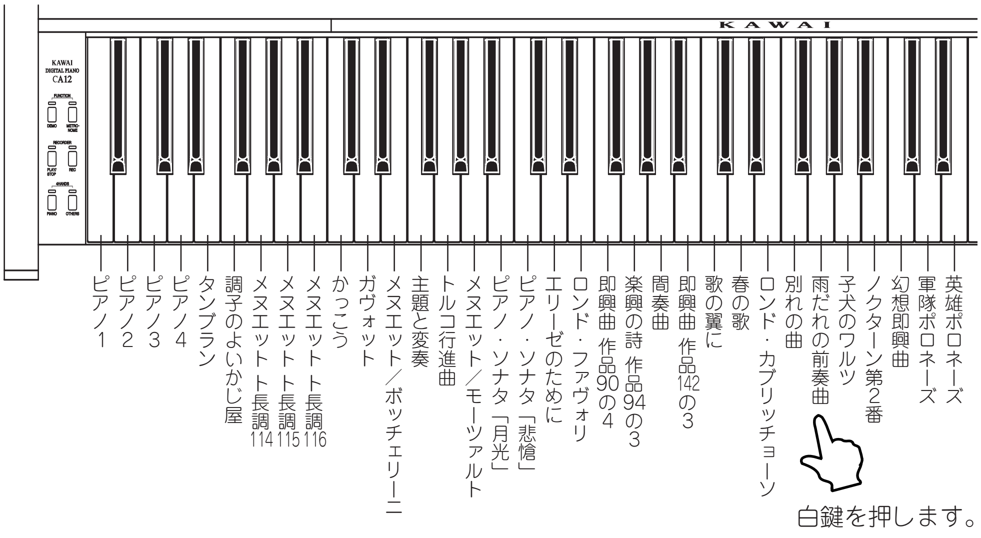
デモ曲演奏中、音色を選択するとデモ曲も同時に変わります。

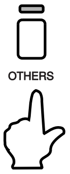
◇操作２

デモ曲演奏中、以下のように鍵盤でデモ曲を選ぶことができます。

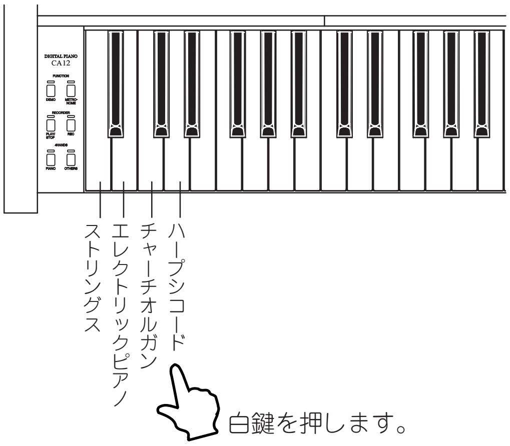


押しながら





押しながら



3. 録音・再生

1）録音

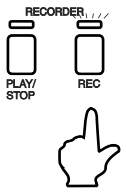
本機では、自分の演奏を録音し、再生することができます。

◇ 録音をしましょう

◇ 操作 1

REC ボタン を押します。

REC ボタンが点滅します。

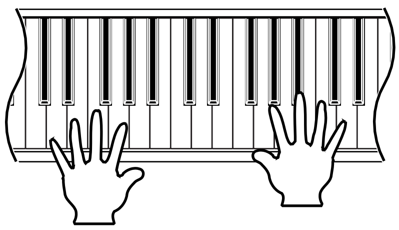


◇ 操作 2

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、REC ボタンとPLAY/STOP ボタン の
ランプが両方点灯します。

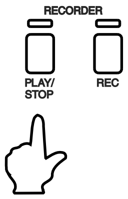
■ PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。



◇ 操作 3

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

REC ボタン とPLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。



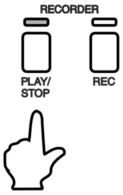
■ レコーダーの総記憶容量は、約 7,500 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、
録音が中止されます。
中止される直前までの演奏は録音されます。

2）再生

録音した曲を再生します。

□ ***操作 1***

PLAY/STOP ボタンを押します。



PLAY/STOP ボタンが点灯し、今録音した曲が再生されます。

■ **再度 REC（録音）ボタンを押して、録音を開始すると、前に録音された曲は消去され、新しく弾いた曲が録音されます。**

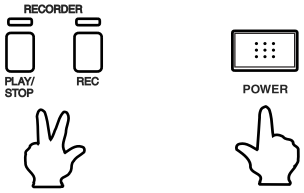
3）録音内容の消去

録音した曲を消去したい場合、まず電源スイッチを切ります。

◇ ***操作 1***

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを押しながら、
電源を ON にします。

録音した曲が消去されます。



押しながら

4.設定モード（ファンクション）

ピアノ演奏をさらに楽しむための設定を変えることができます。

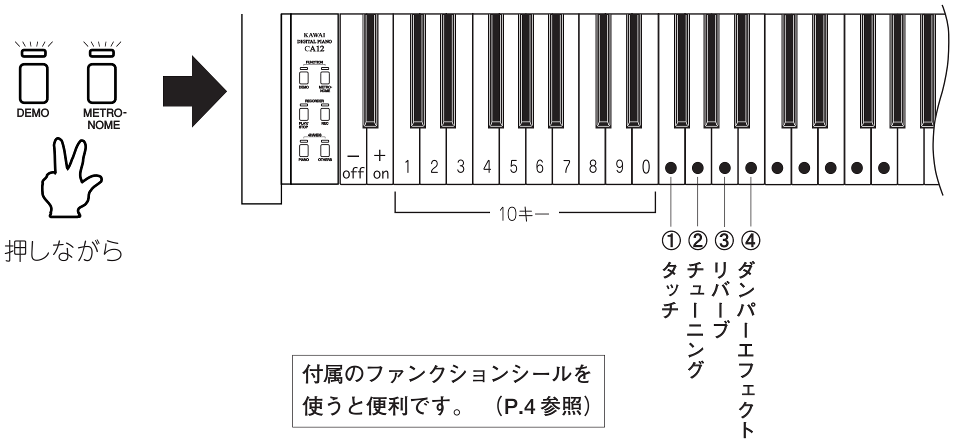
1）設定モードの基本的な使い方

◇ *設定モードに入り、設定項目を選びます。*

DEMOボタンとMETRONOMEボタンを同時に押しながら（設定中は常に押し続けます）、設定したい項目①～④の鍵盤を押して設定項目を選びます。設定中はDEMOボタンとMETRONOMEボタンが点滅します。

◇ *値を設定します。*

鍵盤に割り当てられている10キー、もしくはー（off）/＋（on）キーで値を入力します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。 （P.4 参照）

◇ *設定モードから抜けます。*

押し続けたDEMOボタンとMETRONOMEボタンを離します。

■ 電源を入れたときは、ここで設定した値はリセットされ、自動的に下記初期値に設定されます。

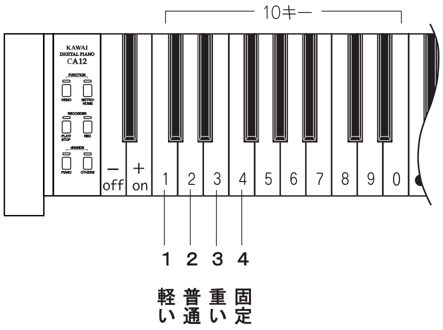
●設定項目	●初期値
① タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）	普通（ノーマル）
② チューニング（本体のピッチ）	A4 ＝ 440.0Hz
③ リバーブ（残響）	オン
④ ダンパーエフェクト	2

2）タッチを変える

鍵盤を弾く強さによる音量を変更できます。指の強さ、お好みに合わせて、４種類のなかから選択できます。

◇ *操作*

DEMO ボタンと METRONOME ボタンを押しながら①の鍵盤（P.14 参照）を押し、次に 10 キーの 1 ～ 4 で設定します。



1	軽い（ライト）	弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
2	普通（ノーマル）	生ピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
3	重い（ヘビー）	強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
4	固定（オフ）	鍵盤を弾く強さに関係なく常に一定の大きさで発音します。

■ **電源を入れた時は 2 の普通（ノーマル）に設定されます。**

3）チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。
442Hz 等と周波数を設定する方法と、他の楽器の音に合わせて上げたり下げたりする２つの方法があります。
電源を入れた時は、A4 ＝ 440Hz に設定されます。0.5Hz 単位で設定できます。

◇ *操作 1*

DEMO ボタンと METRONOME ボタンを押しながら②の鍵盤（P.14 参照）を押し、10 キーで周波数を設定します。

例えば、「A4 ＝ 441.5Hz」に設定する場合鍵盤「4」「4」「1」を押し、さらに「＋」を押します。
もしくは、鍵盤「4」「4」「2」を押し、さらに「ー」を押します。
427 ～ 453Hz の範囲で設定できます。

◇ *操作 2*

DEMO ボタンと METRONOME ボタンを押しながら②の鍵盤（P.14 参照）を押し、ー（off）/ ＋（on）キーで上げたり下げたりします。

この操作では、0.5Hz 刻みで値が変更できます。

4）リバーブ（残響）

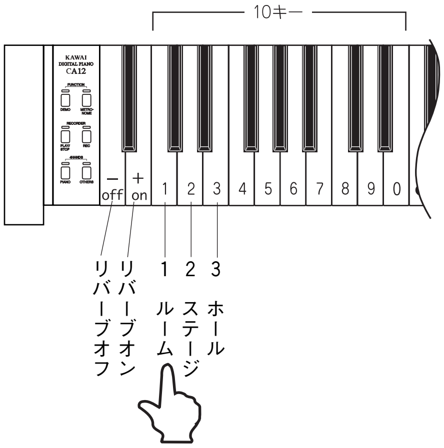
各音色はあらかじめ最適なリバーブの設定になっています。

各音色毎に下記２つが設定できます。
・リバーブ効果を付加する（オン）、付加しない（オフ）
・リバーブ効果の種類（タイプ）を変える、３段階（ルーム、ステージ、ホール）

◇ ***操作 1***

DEMO ボタンと METRONOME ボタンを押しながら③の鍵盤（P.14 参照）を押し、鍵盤上のー（off）/＋（on）キーでオンオフを設定します。

ー（off）：オフ（残響なし）
＋（on）：オン（残響あり）



◇ ***操作 2***

鍵盤上の 10 キーでタイプを設定します。

1：ルーム　　部屋で弾いているような響きです。
2：ステージ　ステージで弾いているような響きです。
3：ホール　　ホールで弾いているような響きです。

■ **ルーム→ステージ→ホールの順で残響音が長くなります。**
■ **タイプを設定すればリバーブオンになります。**

5）ダンパーエフェクト

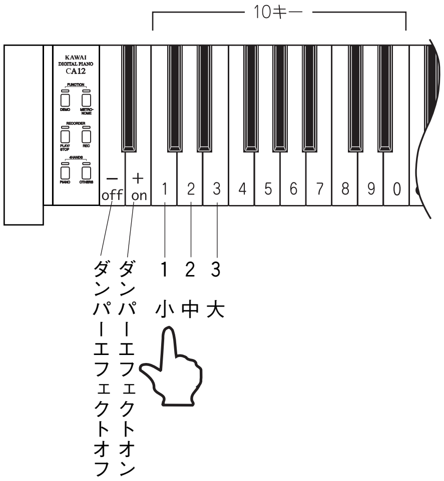
ダンパーエフェクトとはダンパーペダル(P.5)を踏んだ時のピアノ全体の共鳴効果をシミュレートしたもので、この共鳴音の音量を調整します。

各ピアノ音色毎に下記２つが設定できます。
・ダンパーエフェクトを付加する（オン）、付加しない（オフ）
・ダンパーエフェクトの音量を変える、３段階（小、中、大）

◇ ***操作 1***

DEMO ボタンと METRONOME ボタンを押しながら④の鍵盤（P.14 参照）を押し、鍵盤上のー（off）/＋（on）キーでオンオフを設定します。

ー（off）：オフ（ダンパーエフェクトなし）
＋（on）：オン（ダンパーエフェクトあり）



◇ ***操作 2***

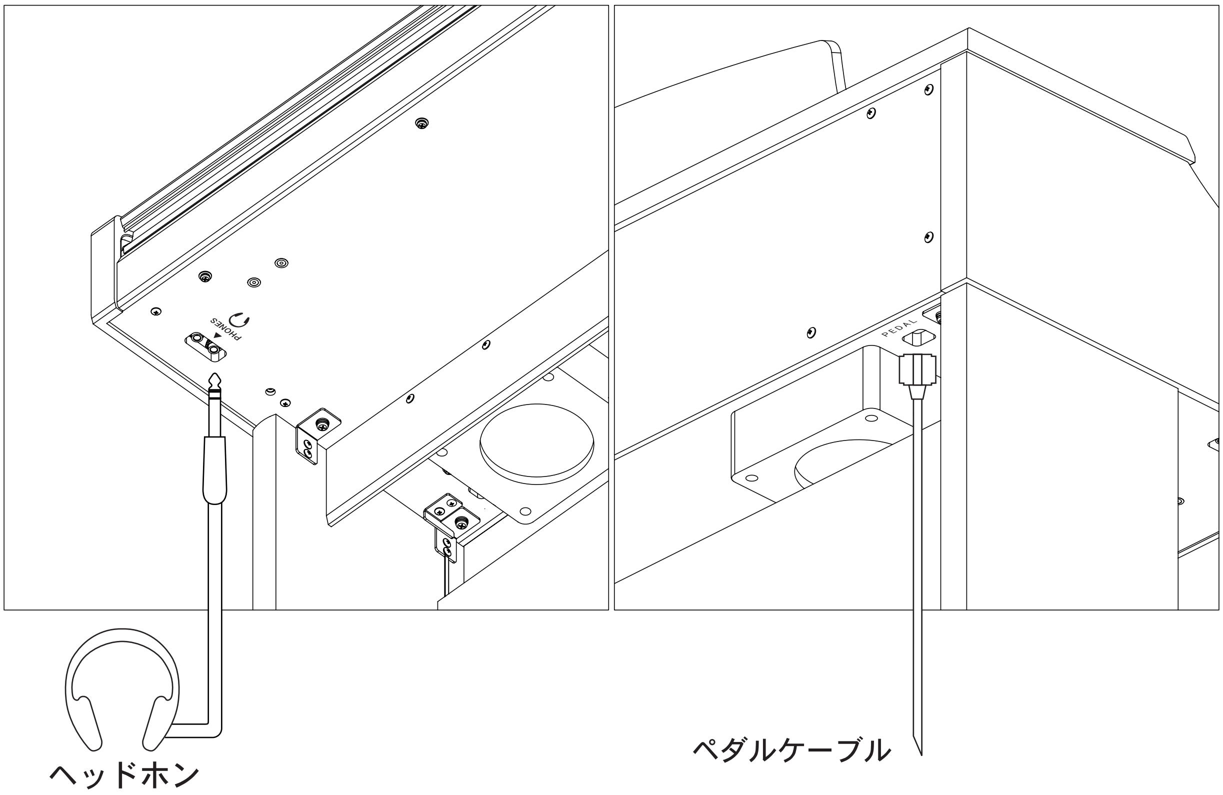
鍵盤上の 10 キーでダンパーエフェクトの音量を設定します。

1：小
2：中
3：大

■ **タイプを設定すればダンパーエフェクトオンになります。**
■ **電源を入れたときは、2 に設定されます。**

5.付　録

1）外部機器との接続



① PHONES（ヘッドホン端子）
ヘッドホンを接続する端子です。
2本まで接続できます。

② PEDAL（ペダル端子）
ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

2）本体の組み立て方

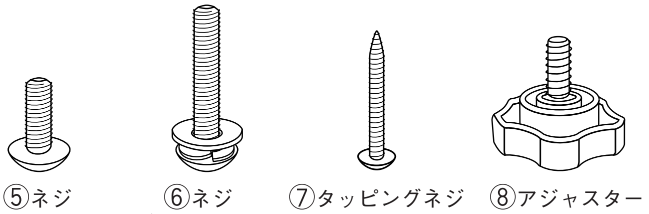
注意

組立作業は、必ず２人で行ってください。

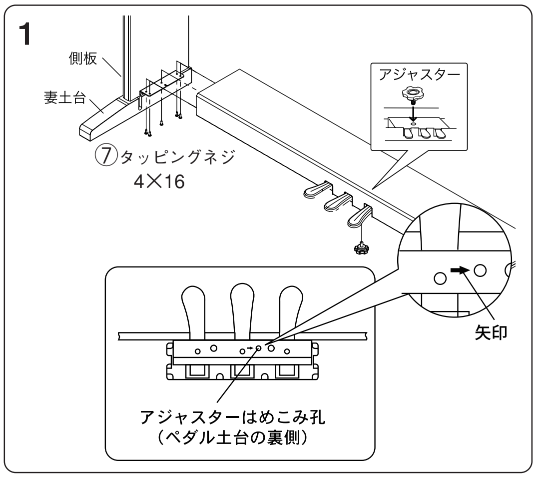
本機を移動する時は、水平に持ち上げるようにし、手を挟んだり、足の上に落とさないよう、十分注意してください。

■パーツ（同梱品）

①側板/妻土台 ････････････････････････････････････ ＊（左右）
②裏板 ･･ 1
③ペダル土台 ･････････････････････････････････････ 1
④下前板 ･･ 1
⑤ネジ ･･･ 8
⑥ネジ（平ワッシャー・スプリングワッシャー付き） 4（CA18：6）
⑦タッピングネジ ･･････････････････････････････ 14
⑧アジャスター ･･････････････････････････････････ 1
⑨ヘッドホンフックセット
・ヘッドホンフック ･････････････････････････････ 1
・タッピングネジ ･･･････････････････････････････ 2

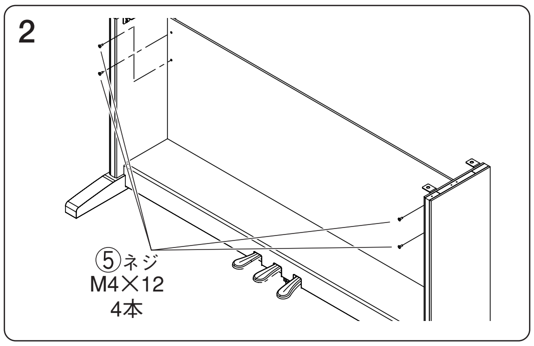


■組み立て順序

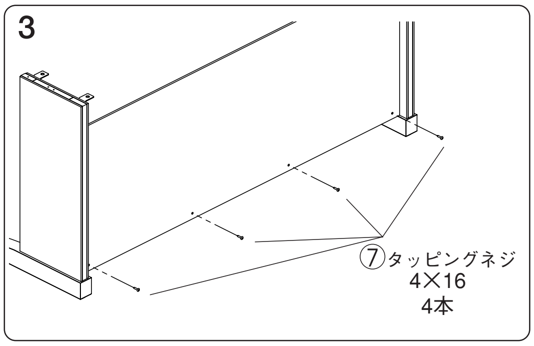


1．ペダル土台の裏側からアジャスター（高さ調整ネジ）を矢印の指す孔に１㎝ぐらいはめこみます。
また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル接続コードを引き出しておいてください。

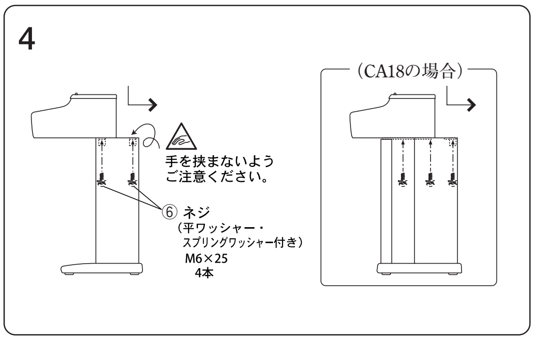
側板／妻土台とペダル土台を 10 本のネジ⑦で固定します。
この時、側板／妻土台とペダル土台を密着させて取り付けてください。
側板／妻土台は、左右あるので組み合わせに注意してください。
ペダルケーブルを挟まないように注意してください。



2．裏側を側板に取り付けます。
ネジ⑤で裏板上部を固定します。



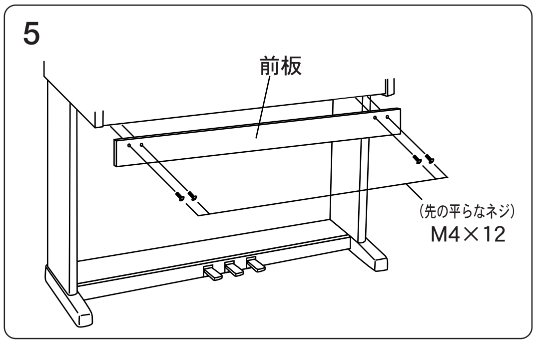
3．４本のタッピングネジ⑦で下部を固定します。
この時、側板と裏板にスキがないように密着させて取り付けてください。



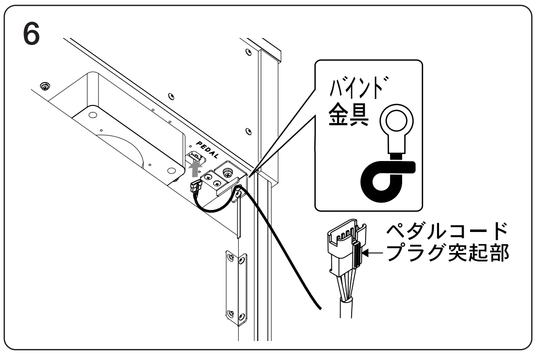
4. 本体をスタンドに静かに載せます。
真上から見て、本体の後ろに金具の穴が見えるくらい本体の前方に載せます。スタンドを固定して､本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると､本体のフックが側板の金具に引っかかります。
この時､本体の後ろを支持している手を､側板と本体の間ではさまないように注意してください。

本体とスタンドを 4 本のネジ⑥(平ワッシャー･スプリンングワッシャー付き)で固定します。(CA18 の場合、6 本になります)
まず、ネジを軽く締めて、4 本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調整してから、きちんとネジを締めるようにしてください。(CA18の場合、6 本になります)
この時、スプリングワッシャーがつぶれるまでしっかり締めてください。

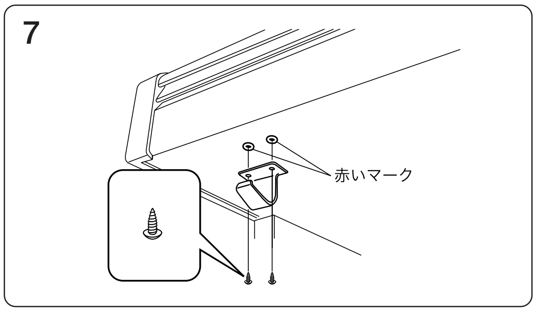
⚠注意 必ず本体とスタンドをネジで固定してください。
固定しないと、本体がスタンドから落ち、大変危険です。



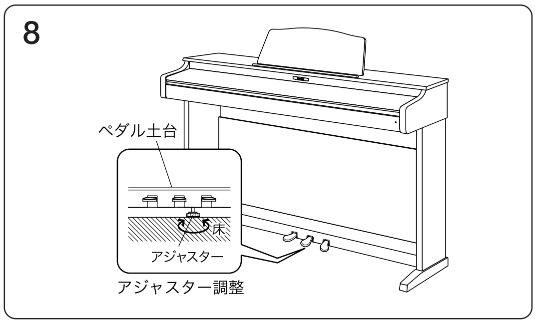
5. 下前板を固定します。
先の平らなネジ⑤で、本体下面の金具に下前板を取り付けます。



6. ペダル土台から出ているペダル接続コードを端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み､コードが適当な位置になるような場所にバインド金具で巻き付けて固定して下さい。



7. ヘッドホンフックは同じ袋に入っている 2 本のタッピングネジで赤いマークの位置に固定してください。



8. ペダル土台の裏にはめたアジャスターを､床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。

⚠注意 アジャスターボルトをしっかり床に付けないとペダル土台が壊れる恐れがあります。
また移動の際は、引きずらないで、必ず床から持ち上げて移動してください。

3）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/AWAグランドプロⅡ（AWA: アコースティックウェイティッドアクション）
■ 同時発音数	最大96音
■ 音　色	ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、ピアノ4、ストリングス、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、ハープシコード
■ その他の機能	ボリューム、チューニング、デモ(37曲)、タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）、リバーブ(ルーム, ステージ, ホール、オフ)、ダンパーエフェクト(小、中、大、オフ)
■ レコーダー	総記録容量　約7,500音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー（ハーフ対応）、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル
■ 出　力	13W×2
■ スピーカー	12cm×2 , 5cm×2
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	100V
■ 消費電力	30W
■ 仕上げ	CA12：ローズウッド調、またはチェリー調　／　CA18：チェリー調
■ 寸　法	（W×D×H）137×46×89（cm）（譜面台含まず）
■ 重　量	CA12：59kg　／　CA18：61kg
■ 同梱品	本体/スタンド一式/譜面台/電源コード/取扱説明書（本書）/ファンクションシール（1枚）/保証書/スタンド組立図/高低自在椅子/ヘッドホン/ヘッドホンフック/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/PS-154（ACアダプター）/楽譜集

※同梱品に関して

同梱品の内容及びその仕様は予告なく変更させていただく場合があります。

4）故障かな？と思ったら

電源が入らない（パイロットランプが点灯しない）

→ 電源ケーブル、AC アダプタ、本体がしっかり接続されているか確認して下さい。(P.6)

鍵盤を弾いても音が出ない

→ MASTER VOLUME（マスターボリューム）が下がっていないか確認して下さい。(P.6)
また、ヘッドホンが接続されたままになってないか確認して下さい。(P.5)

ペダルが効かない

→ ペダル接続コードが本体の端子にしっかり差し込まれているか確認して下さい。(P. 19-6)

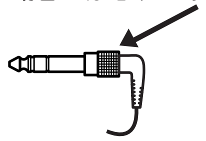
ヘッドホンのL側からしか音が出ない（R側から音が出ない）

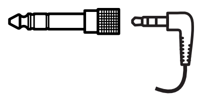
→ 十分奥までプラグが本体に差し込んであるか確認して下さい。

ヘッドホンを抜いたのにスピーカーから音が出ない

→ ヘッドホンの差し込みプラグの先端部が本体に挿入されたままではないか確認して下さい。

付属のヘッドホンのプラグ部は下図のように着脱可能（2つの部品）になっています。
本機で使用する場合は必ずAの状態で使用して下さい。
またヘッドホンを本体に抜き差しする場合には必ず**この部分**を持って行うようにお願いします。

A：

本機使用時（着時）

B：

脱時

症状が改善されない場合や、その他ご不明な点がございましたら、下記までご連絡いただきます
ようお願い致します。

［**お問い合わせ先**について］

◆ご不明な点がございましたら、下記**お客様相談室**をご利用ください。

お客様相談室
Tel：053-457-1311　　E-mail：customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00（土日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます）

お客様サポート・お問い合わせフォーム
http://www.kawai.co.jp/の「お客様サポート」よりお進みください。

◆故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、または
お近くのフィールドサポートまでご連絡ください。

※詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

KAWAI

株式会社 河合楽器製作所

電 子 楽 器 事 業 部

〒430-8665　浜松市中区寺島町200番地

TEL.<053>457-1277 / FAX.<053>457-1279

http://www.kawai.co.jp

KPSZ-0245
Printed in Indonesia
950269

© 2008（株）河合楽器製作所
本取扱説明書の一部、もしくは全部を無断で複写・転載することを禁じます。

2008年10月発行